

&lt;&lt;&lt; 6月男女平等月間の取り組み&gt;&gt;&gt;

# 2015 標語・川柳入賞作品決定！

## 最優秀作品

分かち合う  
仕事も家事も 幸せも

オムロン労働組合草津支部 土井 紀章さん

## 優秀作品（2点）

☆格差あり 是正なしでは 未来なし

J P労組 西村 優紀子さん

☆認め合い ありがとうの 合い言葉

三菱重工労働組合工作機械支部

清水 久樹さん

6月の男女平等月間を皮切りに組合員の皆さんから男女平等参画にかかる「標語・川柳」を募集しました。

今年は82点の応募をいただき、男女平等推進委員会、女性委員会、青年委員会での審査の結果、最優秀賞、優秀賞が決定しました。ご応募いただきました皆様ありがとうございました。

連合滋賀女性委員会、男女平等推進委員会では、『男性も女性もいきいきと働き続けることができる社会・職場環境』を目指して取り組みを推進していきます。

3点以外にも多くの良い作品がありましたので、今後この機関紙でもご紹介していきます。

## 11月は「仕事と生活の調和推進月間」です！

滋賀県では、事業者、労働者、NPO、行政など関係者が一体となって仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進に取り組むため、「仕事と生活の調和推進会議しが」を設置し、職場や地域での実践、社会的気運の醸成等に取り組んでおり、11月を「仕事と生活の調和推進月間」と定め、県民一人ひとりがライフスタイルや職場環境を見直すことにつながる広報・啓発活動を集中的に実施しています。

### あなたの“やる気”と“ゆとり”ワーク・ライフ・バランスをチェック！

みなさんはいくつ当てはまりますか？

自分自身のワーク・ライフ・バランスについて、考えてみましょう！

- 朝は毎日気持ちよく(すっきり)起きられる
- 食事は毎日おいしく食べている
- ほぼ毎日、十分な睡眠時間がとれている
- 残業は少ない方である
- 職場に相談できる仲間がある
- 仕事にやりがいや充実感を感じている
- 有給休暇等の制度を有効に利用している
- 平日でも子どもの学校の行事に参加している
- 充実した余暇や趣味の時間を過ごしている
- 夕食はほとんど家族と一緒に食べている
- 地域活動やボランティア活動に参加している
- 家事・育児等は家族と協力し合っている
- スポーツなどで健康維持に努めている
- 職場以外の友人も多い

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）とは、老若男女だれもが、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など様々な活動について、自ら希望するバランスで展開できる状態のことです。

#### 【仕事と生活の調和推進会議しが 構成団体】

滋賀県商工会議所連合会／滋賀県商工会連合会／滋賀県中小企業団体中央会／滋賀経済同友会／一般社団法人滋賀経済産業協会／公益社団法人びわこビジターズビューロー／日本労働組合総連合会滋賀県連合会／滋賀県社会保険労務士会／滋賀子育てネットワーク／有限会社でじまむワーカーズ／特定非営利活動法人しみんふくし滋賀／生活協同組合コープしが／滋賀県市長会／滋賀県町村会／滋賀労働局／滋賀県



# 連合滋賀

日本労働組合総連合会滋賀県連合会

2015年10月26日  
連合滋賀 第262号  
大津市松本2丁目10-6  
電話077-523-0500  
発行・山田 清  
編集・上田 薫  
(定価 1部6円)  
印刷 ユメディア株式会社

## 重点政策47項目について県行政9部局と協議 2016年度「政策・制度要求と提言」

雇用の安定と地域経済の活性化などの労働政策や、福祉・環境・教育など、11課題103項目におよぶ2016年度に向けた連合滋賀「政策・制度要求と提言」について、10月14日、15日、16日の3日間にわたって、滋賀県の各部局と協議を行ないました。

協議にあたっては、連合滋賀政策委員会において、103の要求項目のうち、47項目を重点課題として設定し、県からの文書回答に基づき、それぞれの部局の担当課から詳細について説明を受けた後、具体的な事項について意見交換を行いました。(回答は、各構成組織に送付します。)



商工観光労働部との意見交換

## 「労働教育」、「主権者教育」のカリキュラム化の推進を滋賀県教育委員会に要請

連合滋賀は9月7日、滋賀県教育委員会に対して、学校における「労働教育」および「主権者教育」のカリキュラム化の推進に関する要請を行いました。

連合滋賀が行う「労働相談」や滋賀大学経済学部での「寄付講座」では若年者の労働契約や規則に関する無理解や無関心が目立ち、また近年連合が実施した調査によると、「学校で労働教育の知識を学んだことがない若年労働者」が29.1%、「働いて困った経験がある若年労働者」が6割という結果がでています。こうした現状に対し、連合滋賀は働く上で必要なワークルールや労働安全衛生、使用者の責任、経済状況や雇用問題に関する知識を活用できるよう、労働教育が一過性のものにならないように授業においてカリキュラム化することを要請しました。



た。また、来夏の参議院選から投票年齢が18歳に引き下げられるにあたり、政治や経済について関心が持てるよう主権者教育を推進することを要請し、意見交換を行いました。



河原教育長に要請書を提出

## 「淡海リーダーセミナー」に神津連合会長を迎える 「働くことを軸とする安心社会の実現に向けて」講演

10月17日に開催した最終講座に、神津里季生連合会長を講師に迎え、強い労使関係の必要性や働くことを軸とする安心社会の実現に向けた総がかりの運動の重要性について提起いただきました。

5月23日に開講した「淡海リーダーセミナー」には、10構成組織19人が受講し、社会保障と税、労働運動の歴史、労使関係の特質、労働組合の役割などのテーマを設定し、連合と密接な関係のある4人の大学教授から講演をいただきました。それぞれの講演後にはグループディスカッションを実施し、課題や問題の解決に向けた率直な意見交換を行いました。

最終講座では、神津里季生連合会長から、社会情勢の変化に伴う格差の拡大や派遣法の改悪、安保法制などの問題点があるなかで、連合がめざす社会像の実現に向けた政策・制度の取り組みや地域と密着した政治活動の強化について提起いただきました。

受講生からは、連合に対する意見や要望などを出し合い共通理解を図るとともに、このセミナーの受講を通しての感想を述べ合い、産別を超えた交流を深めていただきました。

閉講式では、全受講生に修了証書を授与し、全講座を終了しました。



## ミズノテクニクス(株)養老工場を視察見学 中小労組連絡会議 経済労働事情視察交流研修会

10月7日（水）に中小労組の活動強化を図ることを目的として、10単組19名が参加しました。

今回は、UAゼンセン滋賀県支部のご協力を得て、ミズノテクニクス㈱養老工場にお世話になり、ゴルフクラブの製作工程や職人による硬式野球用木製バットの製作などを見学させていただきました。

視察研修にあたって、UAゼンセンミズノユニオン石川要一中央執行委員長から歓迎のご挨拶をいただき、工場の概要について説明いただきました。

ミズノテクニクス㈱は、創業当初からスポーツ用具を製造されており、現在は、環境・福祉・産業関連製品の開発もされています。スポーツ用具（ゴルフクラブ、バット、グラブ等）を製造するにあたっては、トッププロ選手の要求に妥協することなく、クラフトマンといわれる職人が、伝統と革新の匠の技によって作られ



ています。

他業種の現場であっても、いろいろな観点から視察することにより見聞が広がり、職場で活かせるとの声が寄せられました。

## 多くのボランティア参加のもと収穫作業を完了！ アジア・アフリカ支援米

アジア・アフリカ支援米滋賀県実行委員会（連合滋賀と「食とみどり・水を守る滋賀県民会議」で構成）では、連合滋賀をはじめとするボランティアの参加で、残暑厳しい暑さの中、9月5日（土）に大津市迎木の4アールの棚田の稻刈りを行いました。

5月に多くのボランティアの参加で手植えしていたいた苗も、立派な稲穂に育ち、今回の稻刈りにも、約30名のボランティアが集まりました。

前日の雨のせいか、地面がぬかるみ例年より作業のしにくい状態でしたが、予定時間が過ぎた後も、作業を続けてくださいり、すべて手作業にて稻刈りを無事終えることができました。収穫されたお米はアフリカ・マリ共和国に贈られます。

親子で参加いただいた方々も多く、「食」について一度考える良い機会となりました。

満足に食事ができず亡くなっている人々がいなくなる事を心から願い、今後ともさらなる取り組みを進めてまいります。



## さわやかな汗を流し自然とそれあう 秋晴れのなが森林保全ボランティア活動

青年委員会では、今年で5回目となる森林保全ボランティア活動を、9月19日（土）大津市と甲賀市の境にある大津市上田上牧町の六個山の国有林にて、森林管理署のご指導・ご協力のもと15名の参加者が森林保全活動を行いました。山道を鎌で刈りながら道を作っていくところから始まり、気持ちの良い秋晴れの中、爽やかな汗を流しながら作業を行いました。

午前中は、柄の長い大きな鎌で、ヒノキの生育を妨げる草や他の樹木を刈り払う作業、午後からは、柄の短いこぎりに持ち替え、ヒノキの下層の枝を切り落とす枝打ち作業を行いました。

最後は、木が混み合って大きくなることを防ぐための間引きするヒノキの間伐作業を、代表者2名が体験をさせていただきました。普段できない森林保全作業を自分たちの手で行うことで、自然を守る大切さ・大変さを痛感することができました。

今後とも、こういったボランティアを通じ、気づきにつながる取り組みを継続していきます。

